

ミャンマー・アウンティリ小学校 支援の足跡

「ビルマの耳飾り」の著者である故中村一雄氏が生前に建立した、ミャンマー(旧国名ビルマ)北部のアウンティリ小学校。老朽化したこの学校のため、修繕支援チャリティー公演「ビルマの耳飾り」が平成29年3月に上演されました。ここでは、ビルマの耳飾り実行委員会が、その収益と協賛金などを同小学校に寄附し支援してきた足跡をたどります。

原作「ビルマの耳飾り」は、村内の雲昌寺住職だった故中村一雄(ペンネームは武者一雄)氏が自身の体験をもとに執筆した著書。昭和42年度講談社児童文学新人賞受賞。作品は、戦時中の日本兵と彼らが滞在したビルマの村に住む女の子のお話。中村氏は、映画「ビルマの豎琴」(市村崑監督)の主人公のモデルとされています。



中村一雄(武者一雄)氏

1 始まりは産業青年海外派遣 平成26年3月6日



未来の産業を担う若者を育成する「昭和村産業青年海外派遣事業」でミャンマーへ。故中村一雄氏が生前、私財を投じて建てたアウンティリ小学校を訪ね、老朽化した学校の現状を知ることに。

2 ビルマの耳飾り実行委員会発足 平成28年3月1日

産業青年海外派遣メンバーと賛同者で実行委員会が発足。中村氏の業績を広め、アウンティリ小学校の修繕と地域の文化向上に寄与すべく活動開始。劇団「繭」(倉澤新平代表)に出会いました。



3 劇団「繭」のチャリティー公演 平成29年3月26日



支援を形とすべく、劇団「繭」の創作劇「ビルマの耳飾り」チャリティー公演が実現。奇しくも22年前(平成7年)と同じ日に、同じ会場の利根沼田文化会館大ホールで、900人以上の方が来場。

4 ティン・エイ・エイコさん来日 平成30年4月6日



支援活動を現地で支えてくださるティン・エイ・エイコさんが来日(後列右から4人目)。現地での状況を伺いました。ティンさんは、中村さんと深い親交があり、中村さんの本を翻訳した方でもあります。

5 粘り強く支援つなげ修繕開始 平成30年4月18日

簡単に支援に入ることができず、1年かかりついに修繕開始。学校の希望で、まずは学校の塀から。学校の周囲は衛生面に不安があるため、塀をしっかりと整備することはとても大切なのです。



6 まさかの「初の図書館」建設へ 平成30年8月29日



ミャンマー政府の補助で校舎などは整備できることに。代わって、学校初の図書館建設と戦没者慰霊碑修繕、塀の増設などを援助することに。寄附額は1,715,268円。写真は建設中の図書館。

7 念願の学校の修繕が完成 平成30年12月17日



ミャンマー北部の田舎にあるアウンティリ小学校。設備のよい都会の学校と違い不自由を強いられてきたものの、ついに国からの補助、そして地域の人々の協力もあり、学校の修繕が完成しました。

8 ついに記念図書館も完成 平成31年1月17日

「中村一雄記念図書館」と命名された図書館もついに完成。入口には、チャリティー公演を経ての寄贈と、中村氏と子どもたちの笑顔をつなぐ証であることが記されたプレートが掲げられています。



「中村一雄記念図書館」
この図書館を、アウンティリ小学校修繕チャリティー公演「ビルマの耳飾り」の収益と寄付金により建設致しました。中村一雄氏の想いを子どもたちの笑顔とつなぐために、全ての方に感謝申し上げます。
ビルマの耳飾り実行委員会

9 子どもたちとともに 平成31年4月30日



支援のために協力いただいた多くの方々との縁で、取り組みが達成され、役目を終えた実行委員会は解散しました。小学校の子どもたちが夢をもって学べますように！